

平成 29 年度 大阪 2 部男子 自由演技規則

2017年改訂版採点規則・平成 29 年度高等学校男子適用規則に準じ、大阪高体連 2 部大会・公立校大会男子自由演技大阪高体連 2 部適用規則を定める。

【演技の採点】

D スコア (演技内容)	Difficulty
・ 難度	最大 9 つの難度の高い順からの技と終末技。 * 同一技は 2 回まで数える * 難度設定は高体連適用
・ 要求グループ	4 つの要求グループ技。 各 0.50 × 4 最大 2.00
・ 組合せ加点	なし
・ 熟練性加点	0.5 1 部分または全体演技の流れに対して評価する。 * 美しさ (足首、指先、体線) * 雄大さ (宙返りの高さ、旋回の高さ、振動の高さ)

E スコア (演技の実施)	Execution
	10.00 から始まり、0.10 単位の減点によって算出。 * 美的、実施欠点による減点。(腕、膝、腰の曲がりやリズムに欠ける等) * 技術と構成上の欠点による減点。(静止時間や角度、ひねり、雄大性不足等)

$$\text{最終得点} = (\text{D スコア} + \text{E スコア}) - (\text{ニュートラル・ディダクション})$$

ニュートラル・ディダクションとは、ライン減点、タイム減点、種目特有の要求、技数減点等のことをいう。以下、ニュートラル・ディダクションをNDと記す。

◎要求グループ 各 0.50 × 4 最大 2.00 (難度の指定はしない)

ゆか

- ① 前方系の跳躍技
- ② 後方系の跳躍技
- ③ 倒立静止技 (2 秒静止)
- ④ 終末技 (③以外の技)

ただし、前方系または後方系アクロバット系シリーズのない演技は ND として -0.5

あん馬

- ① 中央旋回
- ② 交差技
- ③ 移動技 (旋回を伴う)
- ④ 終末技

つり輪

- ① 懸垂振動技
- ② 倒立静止 (2 秒静止)
- ③ 倒立・脚前拳を除く力静止技 (2 秒静止)
- ④ 終末技

跳馬

- ・ D (価値点+0.5) + E スコア (10.0)
- ・ 足からの着地がなければ 0 点
- ・ 開脚とび・閉脚とびは D スコア 1.00 とし E スコア 7.00 満点とする

平行棒

- ① 支持振動技
- ② 腕支持振動技
- ③ 懸垂振動技
- ④ 終末技

ただし、支持振動倒立 (2 秒静止) のない演技は ND として -0.5

鉄棒

- ① 前方車輪
- ② 後方車輪
- ③ バーに近い技
- ④ 終末技

ただし、鉄棒上で倒立を経過しない演技は ND として -0.5

* 補足説明

1. 終末技とは「採点規則」に記載されている技 (高体連適用を含む) をいう。
2 部規定に含まれる技及び終末技を A 難度と認める。
2. ゆか、平行棒、鉄棒の種目特有の要求に対する ND は、決定点 5.0 未満の演技には適応しない。
3. 跳馬以外の種目における短い演技に対する減点 (ニュートラル・ディダクション) ND

7 技またはそれ以上	-0.0
5 ~ 6 技	-4.0
4 ~ 3 技	-6.0
2 ~ 1 技	-8.0
0 技	-10.0

◎ Eスコアの実施減点

小欠点 0.10

中欠点 0.30

大欠点 0.50

【Eスコアの減点項目】

欠点	小欠点 0.1	中欠点 0.3	大欠点 0.5
美的・実施欠点による減点			
あいまいな姿勢（かかえこみ・屈身・伸身）	+	+	+
手や握り手を調整、修正する（毎回）	+		
倒立で歩く、またはとぶ（1歩につき）	+		
ゆか、マット、または器械に触れる	+		
ゆか、マット、または器械にぶつかる			+
演技中の選手に補助者が触れる		+	
落下なしに演技を中断する			+
腕、脚をまげる、脚を開く	+	+	+
終末姿勢の姿勢不良、修正	+	+	+
宙返りでの脚の開き	肩幅以下	肩幅を超える	
着地で脚を開く	肩幅以下	肩幅を超える	
着地でぐらつく、小さく足をずらす、手を回す	+		
転倒や手の支えのない不安定な着地 （歩数については最大-1.0）	安定感に欠ける、小さくとぶ、小さく1歩動く（1歩につき0.10）	大きく1歩、大きくとぶ、片手、両手がゆかに触れる	
着地で転倒する、または片手、両手で支える			1.00
足からの着地がみられない			1.00 難度不認定
無価値な開脚		+	
その他の美的欠点	+	+	+
技術的欠点			
振動からの倒立や倒立経過、旋回技での角度逸脱	15°～30°	31°～45°	45°を超える
正しい静止姿勢からの角度の逸脱	15°まで	16°～30°	31°～45° 45°を超える ＝難度不認定
角度逸脱の減点がある静止技から押し上げ	静止技の減点と同等の減点		
ひねり不足	30°まで	31°～60°	61°～90°
宙返りや手放し技で高さや大きさ不足	+	+	
余分な手をつく	+		
力技を振動で、振動技を力で行う	+	+	+
静止時間		2秒未満	なし＝不認定
上昇運動が途切れる	+	+	+
倒立への技で、脚が下がる（元の位置から）	15°まで	16°～30°	31°～
静止技、力技において2回以上試みる		+	+
倒立でぐらつく、または倒れる	+	大きくぐらつく	倒れる
落下、器械上に倒れる			1.0
中間振動、または無価値な振り下ろし		半中間振動	中間振動
補助者が技の実施を手助けする			1.0 不認定
体を伸ばす準備のない着地	+	+	
ゆか、あん馬において演技面全体を使用しない		+	
その他の技術欠点	+	+	+

【補足】

- ・ 禁止技 2013年度版 全日本中学校適応規則に準じる
 - ・ ゆか：前方宙返り転（後ろとびひねりからも含む）
前方2回宙返り（後ろとびひねりからも含む）
後方2回宙返りに1回半以上のひねりが加わった技
 - ・ 跳馬：2017年版採点規則「グループⅣⅤ」のロンダートから着手までにひねりが入る技
ツカハラとび、ユールチェンコとびに1回半以上のひねりが加わった技
前転とび前方宙返りに1回以上のひねりが加わった技
前方、後方ともに3回宙返りの技
 - ・ 鉄棒：前方2回宙返り下り
後方2回宙返り下りに1回半以上のひねりが加わった技
後方3回宙返り下り

禁止技を行った場合、その得点は0点とする。

- ・ 各種目の要求グループ①～④の要求を満たさないが、技数としての認められるものを下記に設定する。（A難度として認められることはない）

ゆか	側方倒立回転（側転）
あん馬	四つ脚（脚の入れ、入れ、抜き、抜きの1往復で1技）
	旋回を伴わない単純なとび越し下り（上向き、下向き、倒立）
つり輪	前振り出し（屈伸で肩が輪まで上がらなくてもよいが、明確に振り出す姿勢が必要）
	肩倒立（ワイヤーに脚をつけるものは認めない、2秒静止）
平行棒	肩倒立（バーに肩をのせてよい、瞬時静止） または、前ロール
	後ろロール
	後ろ振り上がり
	支持振動からの横下り（水平以上のスイングであること）
鉄棒	懸垂逆上がり
	脚かけ上がり
	後ろ回り
	前回り
	倒立を経過しないとび越し下り

- ・ 鉄棒の下り技として次のものは、A難度とし、要求グループも満たす。
足裏支持前振り出し下り（フット下り）
後方浮き支持前振り出し下り